

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 08

学校名・団体名	大崎教育研究会 「生活科・総合的な学習の時間」部会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	生活科・総合的な学習の時間の中の防災教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「防災教育」が重視される一方、震災の記憶が風化しつつあり「防災意識」の維持が課題となっている。また、多くの小中学校で、生活科・総合的な学習の時間に「防災教育」が位置づけられているものの、その取組方に多くの教員が迷いを感じている。</p> <p>そこで、県内各地の小中学校の防災教育の現状や課題、今後の在り方について、実際に活動を行いながら意見を交流し、防災教育の充実を図っていきたいと考え、本テーマを設定し、宮城県大会を開催することとした。</p>	

1 事業の名称

第26回宮城県小学校生活科・総合的な学習研究大会・大崎大会

2 開催期日 平成29年11月2日(木)

3 開催場所

パレットおおさき(大崎生涯学習センター)

大崎市古川穂波三丁目4番20号(TEL0229-91-8611)

4 事業の実施概要及び成果等

「夢と志をはぐくむ生活科・総合的な学習の時間の創造～『明日を創り出す力』をはぐくむ防災教育の実践をとおして～」を主題とし、防災教育に関するワークショップ・県内各地区代表者による研究発表・宮城教育大学特任教授及び上廣倫理教育アカデミー所長である野澤令照氏の講演会を行った。

ワークショップは「ふせぐ」「にげる」「くらす」のテーマに沿って、部員からの実践報告と体験活動を伴った協議を行った。官民連携で防災コミュニティ構築に取り組んでいる積水ハウス株式会社にも参加いただき、専門的な立場からの助言や資料の提供をいただいた。防災教育がこれまで以上に必要になっていることや、児童・生徒そして教職員の防災意識を維持していくことの大切さを各ワークショップで確認した。また、活動の目的を明確にすることや、それぞれの学校の実態や地域性に応じた工夫や改善が必要であることも確認した。

分科会では、県内各地の実践事例の発表をもとに、生活科や総合的な学習の時間で身に付けさせたい力や子どもの気付きや課題発見・課題解決力を引き出す指導法について話し合った。目的意識をもって活動させることや、カリキュラム・デザインをもつことの大切さを共有することができた。

講演会では、数多くの被災地域に出向き様々な活動に取り組まれた宮城教育大学特任教授の野澤先生から、豊富な資料をもとに、防災教育の重要性に関するお話や、学校教育を推進していく上での指標をたくさんご提示いただいた。参加者からは、「勇気付けられた。」「これからの実践に役立てていきたい。」という感想が多く出された。

全体を通して、防災教育を行っていくことが児童生徒に地域や将来を自分たちの手で築いていこうという気持ちや能力を養っていくことにつながることや、防災・減災への取組の中には、生活科や総合的な学習のねらいに直結する素材が多く含まれることを確認することができた。「参考になる提案や情報が多かった。」という感想が多かった一方で、「協議や実践を行う時間が足りなかった。」との声もあった。

本大会で得た資料や実践報告をもとに、それぞれが所属校で実践を行い、本大会テーマをさらに深めていこうと確認し合った。